

歯科医学総合講義 2

年次	学期	学則科目責任者
2年次	後学期	2年次学年教育主任

学修目標 (G I O) と単位数	学修目標 (G I O) : 社会の要請に応える創造性と人間性豊かで自立する全人的な歯科医師になるため、これまで講義や実習で学んだ内容を統合し、松戸歯学部 student doctor として必要な態度・知識・技能を修得する。 単位数 : 2
担当教員	吉垣 純子、渋谷 鑛、近藤 信太郎、遠藤 弘康、伊藤 孝訓、平塚 浩一、岡田 裕之、青木 伸一郎、栗原 紀子、齋藤 真規、續橋 治、落合 智子、西山 典宏、久山 佳代、三枝 禎、金田 隆、谷本 安浩
教科書	各科目の教科書を使用する。 各科目参照 各科目参照
評価方法 (E V)	定期試験の成績を評価点とする。ただし、当該学年に配置された全科目のうち、授業時間数の1/5以上を欠席した科目が1科目以上ある者の成績は、0~60点とする(試験の成績が60点を超す場合であっても60点とする)。 定期試験で成績が60点に満たない者にたいしては再試験を実施する。ただし、当該学年に配置された全科目のうち、授業時間数の1/5以上を欠席した科目が1科目以上ある者は、再試験を受ける資格が与えられない。 定期試験を欠席し追試験を希望する者は、速やかに正当な理由を証明する書類を提出すること。審議の上、追試験の受験資格の有無を決定する。
学生へのメッセージ オフィスアワー	1年次の基礎生命化学、2年次で学修する授業内容について、自身の得意分野、不得意分野を把握すること。また、授業を通して、効果的な自学自習の行い方を身につけて欲しい。 注意：本講義は、各科目のまとめなので、講義開始日を遅らせ11月27日から開始し、2月7/8/9日に集中講義で行う。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/11/27 (月) 1時限 09:00~10:30	医学・歯科医学史	<p>【授業の一般目標】 歯科医学の歴史(史実)について学ぶ。歯科医学に関係した人物史の理解、歯科医学教育の発展経過、歯科医事衛生史を中心に学修する。わが国における医学・歯科医学の発展の概略を知り、とくに近代歯科医学の発展進歩を知ることは過去から現在への考証とともに未来を予測することへの一助となる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 近代歯科医学の発展経過について理解する。 2. 歯科医学の発展に貢献した人物史について学ぶ。 3. 歯科医療・歯科医事に関して歴史的に考察することができる。 4. わが国固有の木床義歯について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 1年次の医療行動科学2において学習した歯科医学史についての復習と総括。 「スタンダード歯科医学史」(医療行動科学2教科書)の歴史年表の確認をする。 準備学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 17 一般教養的事項 ア 医学史、歯科医学史</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	渋谷 鑛
2017/12/04 (月) 1時限 09:00~10:30	歯の解剖学	<p>【授業の一般目標】 臨床および関連科目を学ぶために必要な歯の解剖学の知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 個々の歯の形態的な特徴を説明する。 2. 歯の左右の違いを説明する。 3. 歯と歯周組織の構造を説明する。 4. 歯列と咬合の形態を説明する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 1年次で学んだ「歯の解剖学」を復習する。 準備学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p>	近藤 信太郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/12/04 (月) 1時限 09:00～10:30	歯の解剖学	<p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 1 0 2 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ウ 歯・歯周組織の構造・組成・機能 a 歯の形態 (歯種の鑑別)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ウ 歯・歯周組織の構造・組成・機能 b 歯式 c 歯の構造・組成 d 歯周組織の構造・組成 (根尖歯周組織、辺縁歯周組織) 歯科医学総論 総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 4 歯・歯周組織の構造と機能 ア 歯の形態 イ 歯式</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-1) 歯と歯周組織の発生および構造と機能 *②歯種別の形態と特徴を説明できる。</p>	近藤 信太郎
2017/12/11 (月) 1時限 09:00～10:30	医療行動科学3 (医療倫理学)	<p>【授業の一般目標】 全人的歯科医療を実践するために医療倫理学を修得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 基本的人権の尊重について概説できる。 2. 医の倫理に関する規範・国際規範を説明できる。 3. インフォームド・コンセントの定義と重要性を説明できる。 4. 歯科医師の裁量権と患者の自己決定権について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 2年次で学んだ「医療倫理学」の復習をする。 準備学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 1 0 2 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム イ 歯科医師と患者・家族との関係 c 自己決定権</p> <p>【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-1 患者の尊厳 *①患者の権利を説明できる。 *②患者の自己決定権を説明できる。 A-2 医の倫理 *②医の倫理に関する規範・国際規範 (ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等)を概説できる。 *③生と死に関わる倫理的問題を説明できる。 A-3 歯科医師の責務 *③患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。 *⑤歯科医師の法的義務を列挙できる。 A-4 インフォームドコンセント *①インフォームドコンセントの意義と重要性を説明できる。</p>	伊藤 孝訓 遠藤 弘康
2017/12/18 (月) 1時限 09:00～10:30	生化学	<p>【授業の一般目標】 前期に終了した生化学の全領域に対する問題を解くことで、再度、理解を深める。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 生体を構成する基本物質について説明できる。 2. 遺伝子や染色体について説明できる。 3. 細胞外基質や情報伝達の機序を説明できる。 4. 炎症の成り立ちを説明できる。 5. 唾液の作用や歯を構成するタンパク質を説明できる。 6. う蝕や歯周病の病態を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 2年次前期で学んだ「生化学」の総復習を行う。 準備学修時間：3時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 Web Classにより問題を出題していくので、順次解答する方式</p> <p>【学修方略 (L S)】</p>	平塚 浩一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/12/18 (月) 1時限 09:00～10:30	生化学	<p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 1 細胞、組織 ア 生体を構成する基本物質</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 a 遺伝子、染色体 b 細胞・細胞内小器官の構造・機能 d 生体構成成分の構造・機能 ウ 歯・歯周組織の構造・組成・機能 c 歯の構造・組成 エ 口腔の生態系 c 唾液の作用 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 1 細胞、組織 ア 生体を構成する基本物質 イ 細胞の構造・機能 エ 遺伝子、遺伝 総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 5 口腔の生態系 ア 唾液 総論Ⅵ 病因、病態 5 炎症 ア 炎症の概念</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-1 生命の分子の基盤 C-1-1) 生命を構成する基本物質 *④生体内におけるエネルギー利用を説明できる。 *⑤酵素の機能と主な代謝異常を説明できる。 C-1-2) 遺伝子と遺伝 *①遺伝子（染色体）の構造とセントラルドグマを説明できる。 *②DNA複製と修復の機序を説明できる。 *③転写と転写調節の機序を説明できる。 *④翻訳の機序を説明できる。 C-1-3) 細胞の構造と機能 *③細胞周期と細胞分裂を説明できる。 *④細胞死（壊死とアポトーシス）の基本的機序を説明できる。 C-1-4) 細胞のコミュニケーション *①細胞の接着装置、細胞間と細胞・マトリックス間の接着分子を説明できる。 *③主な細胞外マトリックス分子の構造と機能を説明できる。</p>	平塚 浩一
2018/01/15 (月) 1時限 09:00～10:30	生理学	<p>【授業の一般目標】 臨床および関連科目を学ぶために必要な人体の正常機能についての知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 器官系の分類および役割を説明できる。 2. 恒常性維持における神経系の役割を説明できる。 3. 恒常性維持における内分泌の役割を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 2年次で学んだ「生理学」の内容についての練習問題を解いておく。 準備学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 練習問題を配付資料としてアップロードしておくので、自力で解いてみること。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 e 器官系（骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系）</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (2) 運動器系 *④骨格筋の構造と機能を説明できる。【収縮の特徴と筋収縮の機序を含む。】 C-2-3) - (3) 循環器系 *④血液循環と血管運動、血圧の調節機構を説明できる。 C-2-3) - (4) 感覚器系 *①皮膚感覚器の構造と機能を説明できる。 C-2-3) - (5) 神経系 *②末梢神経系の機能分類（体性神経系と自律神経系）を説明できる。</p>	吉垣 純子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/01/15 (月) 1時限 09:00～10:30	生理学	<p>C-2-3) - (7) 呼吸器系 *②肺の構造と機能を説明できる。【内呼吸、外呼吸および呼吸運動の機序とその調節系を含む。】</p> <p>C-2-3) - (8) 内分泌系 *①各内分泌器官の構造と機能およびホルモンを説明できる。【ホルモンの特徴と機能、内分泌系と神経系との機能相関を含む。】</p> <p>C-2-3) - (11) 血液、造血器、リンパ性器官 *③赤血球、白血球および血小板の形成過程と機能を説明できる。 *④止血と血液凝固の機序を説明できる。【線溶系を含む。】</p>	吉垣 純子
2018/01/22 (月) 1時限 09:00～10:30	解剖学 (第1回)	<p>【授業の一般目標】 臨床と関連科目の学習に必要な人体の構造に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 全身の骨格系の構造を説明する。 2. 全身の筋系の構造を説明する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 2年次前期で学んだ「解剖学」のうち運動器系の復習を行う。 準備学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 イ 口腔・顎顔面の構造・機能 e 頭蓋を構成する骨 (神経頭蓋、内臓頭蓋)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 イ 口腔・顎顔面の構造・機能 a 口腔の構造 (口腔前庭、固有口腔、口蓋、舌、口 {腔} 底、唾液腺、頬、口唇、口峡、歯列) d 頭部の筋 (表情筋・咀嚼筋の種類) f 頭頸部の神経 (三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経) g 頭頸部の動脈 (総頸動脈、外頸動脈、内頸動脈)、舌動脈、顔面動脈、顎動脈) h 顎関節の構成 (下顎頭、下顎窩、関節円板、関節包、関節結節、靭帯) 歯科医学総論 総論IV 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 1 頭頸部の構造 ア 頭頸部の骨 イ 頭頸部の筋 ウ 頭頸部の脈管 エ 頭頸部の神経 オ 頭頸部の内臓</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 *①頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 *②咀嚼筋、表情筋、前頸筋の構成と機能を説明できる。 *③頭頸部の脈管系を説明できる。 *④三叉神経と顔面神経の走行と分布および線維構成を説明できる。 *⑤顎関節の構造と機能を説明できる。 *⑥下顎の随意運動の基本を説明できる。 E-2-2) 口唇・口腔の基本構造と機能 *②舌の構造と機能を説明できる。 *⑤唾液腺の構造と機能を説明できる。【分泌調節を含む。】 *⑦構音器官としての口腔の形態と機能を説明できる。</p>	近藤 信太郎
2018/01/29 (月) 1時限 09:00～10:30	組織・発生学 (第1回)	<p>【授業の一般目標】 人体を構成する細胞・組織・器官の構造を理解する。 人体の発生における組織構造および発生機序を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 人体を構成する細胞・組織・器官の構造や特徴を説明できる。 2. 人体の発生における組織構造および発生機序を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 人体を構成する細胞・組織・器官の特徴を列挙できる。 「入門組織学」(南江堂) P.1～350を熟読すること。 準備学修時間：2時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項</p>	岡田 裕之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/01/29 (月) 1時限 09:00～10:30	組織・発生学 (第1回)	<p>6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 c 組織 (上皮組織、支持組織 (血液を含む)、筋組織、神経組織)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 e 器官系 (骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (1) 組織 (上皮組織、結合組織、筋組織) 【神経組織の構造と機能はC-2-3) - (5) 神経系の項を参照】 *①上皮を形態的および機能的に分類できる。 *③腺を分泌物の性状、形態および分泌機構に基づいて分類できる。 *⑦硬組織石灰化の基本的機序を説明できる。 C-2-4) 人体諸器官の成長、発育と加齢変化 *①人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。</p>	岡田 裕之
2018/02/07 (水) 1時限 09:00～10:30	医療行動科学4 (医療心理学)	<p>【授業の一般目標】 全人的な歯科医療を実践するために心理学の役割を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯科医学における心理学の役割を説明できる。 2. 記憶について説明できる。 3. 学習の動機付けについて説明できる。 4. 心理検査の特徴を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：2年次で学んだ「医療行動科学4」の復習 準備学修時間：40分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 スライド、講義内容の資料配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 8 医療面接 ウ 病歴聴取 g 患者・家族の考え方・希望</p> <p>【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-4 インフォームドコンセント ④説明を受ける患者の心理状態や理解度に配慮できる。 ⑤患者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。 A-5 歯科医療における安全性への配慮と危機管理 A-5-1) 安全性の確保 *①歯科医療における事故の特異性を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 *⑩診療室における患者の心理と行動を理解し配慮できる。</p>	伊藤 孝訓 青木 伸一郎
2018/02/07 (水) 2時限 10:40～12:10	細菌学 (微生物学)	<p>【授業の一般目標】 医療従事者として感染症への正しい対処法を身につけるために病原微生物に対する基本的な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 病原微生物の種類と特性を説明できる。 2. 感染経路、発症機序を説明できる。 3. 感染予防対策を説明できる。 4. 口腔感染症の病因論、全身への影響について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：2年次で学んだ「微生物学」の復習を行う。 準備学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 学修媒体：Web classのチェックテストを解いておく。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 6 感染症、アレルギー、免疫疾患 イ 病原微生物</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	續橋 治 栗原 紀子 齋藤 真規

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/02/07 (水) 2時限 10:40~12:10	細菌学 (微生物学)	<p>C 生命科学 C-3 感染と免疫 C-3-1) 感染</p> <p>*①細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫の形態学的特徴と基本的性状を説明できる。 *②細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染機構とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。 *③清潔と不潔の区分および滅菌と消毒の意義、原理および代表的な方法を説明できる。 *④化学療法目的、原理、作用機序および薬剤耐性機序を説明できる。 *⑤新興・再興感染症について説明できる。 *⑥院内感染について、原因、予防法について説明できる。</p>	續橋 治 栗原 紀子 齋藤 真規
2018/02/07 (水) 3時限 13:10~14:40	細菌学 (免疫学)	<p>【授業の一般目標】 医療従事者として感染症への正しい対処法を身につけるために生体防御機能としての免疫の基本的な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 免疫応答の基本的な概念を説明できる。 2. 免疫システムの破綻によるアレルギーや自己免疫疾患を説明できる。 3. 口腔特有の免疫システムを説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：2年次で学んだ「免疫学」の復習を行う。 準備学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 学修媒体：Web classのチェックテストを解いておく。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 f 免疫 (自然免疫、獲得免疫)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 3 免疫 ア 免疫系臓器、免疫担当細胞 イ 免疫応答とその調節 ウ 自然免疫 エ 獲得免疫</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 感染と免疫 C-3-2) 免疫 *①自然免疫と獲得免疫について説明できる。 *②細胞性免疫と体液性免疫について説明できる。【抗体の種類と特徴を含む。】 *③免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。 *④自己と非自己の識別機構と免疫寛容を説明できる。 *⑤アレルギーの分類を説明できる。【発症機序を含む。】 *⑥免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。 *⑦ワクチンの意義と問題点を説明できる。</p>	落合 智子
2018/02/08 (木) 1時限 09:00~10:30	歯科材料学	<p>【授業の一般目標】 歯科生体材料・歯科材料の種類、組成、性質および取り扱い方について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 金属材料、高分子材料、セラミック材料および複合材料の性質について説明できる。 2. 歯科生体材料・歯科材料の力学的、物理的および化学的性質について説明できる。 3. 印象材の種類、組成および性質について説明できる。 4. 歯科用石膏の種類、組成および性質について説明できる。 5. ワックスパターンの変形の原因およびその対策について説明できる。 6. 歯科用金属の種類、組成および性質について説明できる。 7. 合着・接着用材料の種類、組成および性質について説明できる。 8. 成形修復材料の種類、組成および性質について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：歯科生体材料の種類および取り扱い方について教科書および配布資料で確認し、2年次に学修した「歯科材料学」の講義内容を復習する。 準備学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室</p>	谷本 安浩

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/02/08 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科材料学	<p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 5 治療の基礎・基本手技 マ 歯科材料 a 基本的性質</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 1 5 治療の基礎・基本手技 マ 歯科材料 b 印象材 c 模型材 d 修復用材料 e 合着・接着材</p> <p>【コアカリキュラム】 D 歯科生体材料と歯科材料・器械 D-1 素材と器械・器具の所要性質 *①高分子材料、セラミック材料、金属材料および複合材料の構造と物性を説明できる。【構造と物性は基本的かつ一般的なものに限る。また、歯科材料に使用される素材間の物性比較を含む。】 *②生体材料の力学的、物理的、化学的および生物学的所要性質を説明できる。 D-2 成形法と成形用材料 *①修復材料と修復法の種類と特徴を説明できる。 *③印象材の種類と特性を説明できる。 *④歯科用石膏の種類と特性を説明できる。 *⑤ワックスの種類と特性を説明できる。 *⑦接着材と合着材の種類と成分および特性を説明できる。</p>	谷本 安浩
2018/02/08 (木) 2時限 10:40～12:10	病理学	<p>【授業の一般目標】 疾病の病因・病態、ならびにそれらを結びつけている過程・経過における変化や現象を理解し、その成り立ちや理論に関することを修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 病因（内因・外因）について説明できる。 2. 6大病変に分類できる。 3. 6大病変それぞれの成り立ちや形態的变化を理解できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 「解剖学」および「組織学」の復習を行う。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 Webclass</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 4 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 a 健康・疾病の概念</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 1 4 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 b 先天異常、発育異常 d 炎症 f 嚢胞 g 腫瘍 h 循環障害 i 代謝障害、萎縮、壊死、壊疽</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-1) 細胞傷害、組織傷害および萎縮 *①細胞傷害と組織傷害について説明できる。【変性を含む。】 C-4-2) 修復と再生 *③創傷治癒に関与する細胞とその過程を説明できる。 C-4-3) 循環障害 *①虚血、充血およびうっ血の徴候、原因および転帰を説明できる。 *⑤梗塞の種類、形態学的特徴および転帰を説明できる。 C-4-4) 炎症 *①炎症の定義を説明できる。【発症機序を含む。】 *②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。 C-4-5) 腫瘍 *①腫瘍の定義を説明できる。 *⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。</p>	久山 佳代
2018/02/08 (木) 3時限 13:10～14:40	薬理学	<p>【授業の一般目標】 薬理作用・薬物動態・薬物治療の基盤となる概念について振り返る。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. これまで学修した薬理作用・薬物動態・薬物治療の基盤となる概念を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 2年次で学んだ「薬理学」の復習を行う。 準備学修時間：1時間</p>	三枝 禎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/02/08 (木) 3時限 13:10～14:40	薬理学	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 ヒ 薬物療法 a 薬物作用の種類（局所作用、全身作用、直接作用、間接作用）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論X 治療 9 薬物療法 ア 薬物療法の種類 ウ 薬物動態 エ 薬効に影響を及ぼす因子 オ 薬物の作用部位・作用機序 カ 用量と反応 キ 薬物の連用 ケ 薬物の副作用・有害作用・薬物相互作用 コ 薬物適用の注意</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 生体と薬物 C-5-1) 薬物と医薬品 *①医薬品の分類を説明できる。 C-5-2) 薬理作用 *①薬物療法（原因療法、対症療法）を説明できる。【歯科臨床において適用される薬物の特徴を含む。】 *②薬理作用の基本形式と分類を説明できる。 *③薬物の作用機序を説明できる。 *④薬理作用を規定する要因（用量と反応、感受性）を説明できる。 *⑤薬物の連用の影響（薬物耐性、蓄積および薬物依存）を説明できる。 *⑥薬物の併用（協力作用、拮抗作用、相互作用）を説明できる。 C-5-3) 薬物の適用と体内動態 *①薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。 *②薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を説明できる。</p>	三枝 禎
2018/02/09 (金) 1時限 09:00～10:30	放射線学	<p>【授業の一般目標】 歯科医師として適切な画像検査や機器管理ができるようになるために、各種撮影法の原理や特徴および読影を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1.各種撮影法の原理を説明できる。 2.放射線の影響と防護を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 2年次で学んだ「放射線学」の範囲の復習を行う。 準備学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有、予習30分</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 11 検査の基本 オ 画像検査 a エックス線撮影（口内法、パノラマエックス線撮影、CT、歯科用コーンビームCT、造影検査）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論IX 検査 2 画像検査 エ エックス線撮影装置・器材 総論X 治療 8 放射線治療 イ 口腔領域の放射線治療 総論IX 検査 2 画像検査 ケ 口内法エックス線検査 コ パノラマエックス線検査 シ CT セ MRI ソ シンチグラフィ タ 超音波検査 サ 顎顔面頭蓋部エックス線検査 カ デジタル画像システム</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本</p>	金田 隆

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/02/09 (金) 1時限 09:00~10:30	放射線学	E-1-2) 画像検査 *①放射線の種類、性質、測定法と単位を説明できる。 *②放射線の人体(胎児を含む)への影響の特徴(急性影響と晩発影響等)を説明できる。 *③放射線防護の基準と方法を説明できる。 *④エックス線画像の形成原理を説明できる。【画像不良の原因を含む。】 *⑤エックス線装置とその周辺機器の原理と管理技術を説明できる。 *⑥口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影の種類および適応を説明できる。 *⑦口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影を行い、読影できる。 *⑧頭部エックス線撮影の種類および適応を説明できる。 *⑨造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法(CT)、磁気共鳴撮像法(MRI)および核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。	金田 隆
2018/02/09 (金) 2時限 10:40~12:10	解剖学(第2回)	【授業の一般目標】 臨床と関連科目の学習に必要な人体の構造に関する知識を習得する。 【行動目標(SBOs)】 1. 全身の脈管系の構造を説明する。 2. 全身の神経系の構造を説明する。 3. 消化器・呼吸器・泌尿器の構造と機能を説明する。 4. 感覚器の構造と機能を説明する。 【準備学修項目と準備学修時間】 2年次で学んだ「解剖学」のうち脈管系、神経系、内臓、感覚器系の復習を行う。 準備学修時間: 1時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 102教室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 e 器官系(骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系(脈管系)、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系) 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 2 器官系 ア 骨格・筋系<運動器系> イ 消化器系 ウ 呼吸器系 エ 循環器系<脈管系> オ 泌尿器系 カ 生殖器系 キ 神経系<中枢・末梢神経系> ク 感覚器系 ケ 内分泌系 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3)-(2) 運動器系 *①生体を構成する主な骨と筋を列挙できる。 C-2-3)-(3) 循環器系 *⑤主な動脈と静脈を列挙できる。 *⑥リンパの循環路とリンパ節の構造と機能を説明できる。 C-2-3)-(4) 感覚器系 *③視覚器、聴覚・平衡感覚器の構造と機能を説明できる。 C-2-3)-(5) 神経系 *①脳神経の種類、走行、線維構築および支配領域を説明できる。 *④脳と脊髄の基本的構造と機能を説明できる。【主要な自律機能(呼吸、循環、体温)の調節中枢の働きを含む。】 C-2-3)-(6) 消化器系 *①消化管(咽頭、食道、胃、小腸、大腸)の基本構造と機能を説明できる。 【腸管平滑筋の特徴、消化液、消化管ホルモンの機能を含む。】 C-2-3)-(7) 呼吸器系 *①気道系(鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管、気管支)の構造と機能を説明できる。 C-2-3)-(9) 泌尿器系 *①腎臓と尿路(尿管、膀胱、尿道)の構造と機能を説明できる。 C-2-3)-(10) 生殖器系 *①男性生殖器、女性生殖器の構造と機能を説明できる。【ホルモンによる調節を含む。】	近藤 信太郎
2018/02/09 (金) 3時限 13:10~14:40	組織・発生学(第2回)	【授業の一般目標】 口腔を構成する細胞・組織の形態的特徴を理解する。 顔面および歯の発生における組織構造を理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 口腔を構成する細胞・組織の形態的特徴を説明できる。 2. 顔面および歯の発生における組織構造を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 2年次で学んだ「組織・解剖学」の復習を行う。 口腔を構成する細胞・組織の特徴を列挙できる。 顔面および歯の発生における形態的特徴を列挙できる。	岡田 裕之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/02/09 (金) 3時限 13:10~14:40	組織・発生学 (第2回)	<p>「カラーアトラス口腔組織発生学」(わかば出版) P.7~122を熟読すること 準備学修時間:2時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング:無</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 イ 口腔・顎顔面の構造・機能 a 口腔の構造 (口腔前庭、固有口腔、口蓋、舌、口(腔)底、唾液腺、頬、口唇、口峡、歯列)</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論IV 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 4 歯・歯周組織の構造と機能 ウ エナメル質 エ 象牙質・歯髄複合体 オ セメント質 カ 歯肉 キ 歯根膜 <歯周靭帯> ク 歯槽骨</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-2) 個体発生、器官発生 *①個体発生と器官発生を概説できる。 C-2-4) 人体諸器官の成長、発育と加齢変化 *①人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。</p>	岡田 裕之